



礫地に咲く花を訪ねて

6月下旬、利尻山山頂近くで黄色い花の蕾を見つけました。礫地にひっそりと咲くこの花は、利尻島の固有種“リシリヒナゲシ”。日本で唯一自生するケシの種類で、絶滅危惧種に指定されており、環境省も生育状況調査などを行っています。花の見頃は7月中旬から8月中旬。利尻山山頂の厳しい自然環境の中、今夏も可憐な花を咲かせてくれそうです。

※写真は昨年の開花の様子です。

撮影地：鴛泊登山道（利尻富士町）

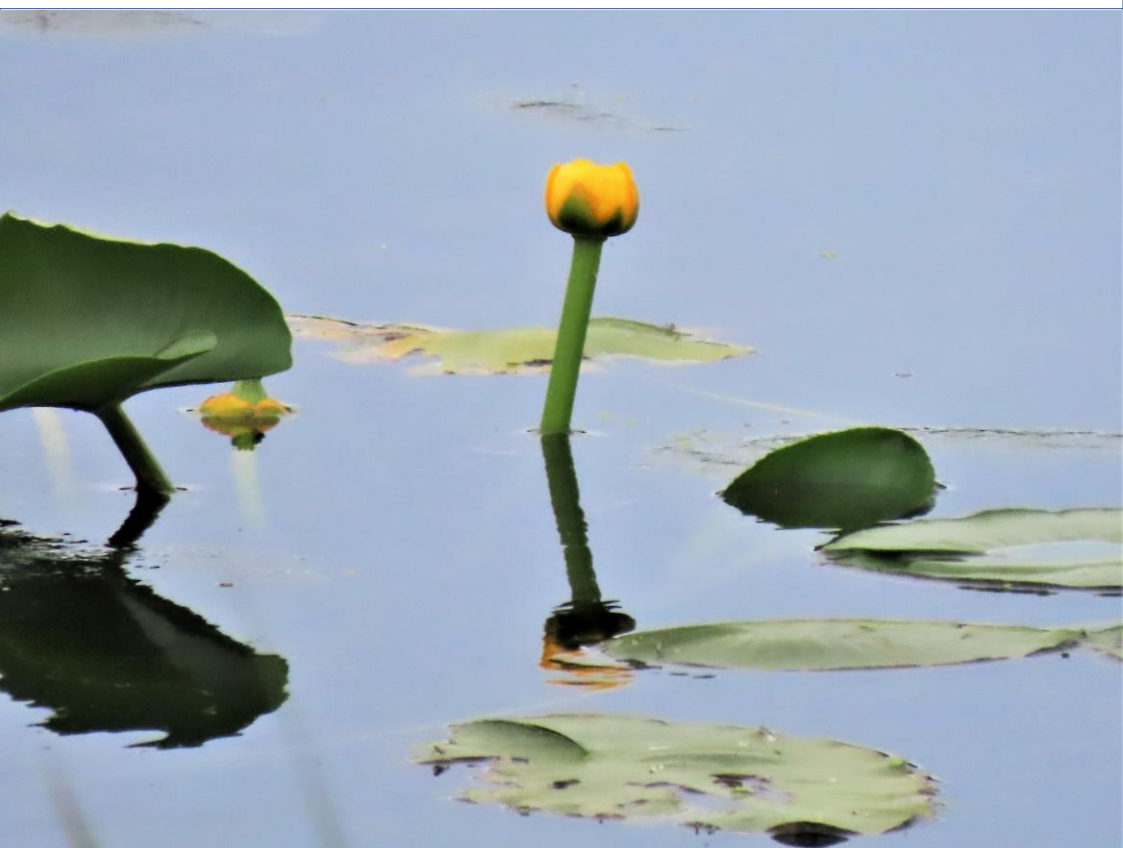
利尻島

最果ての島の宝物

かつて島内に広く自生していた“レブンアツモリソウ”。花の浮島・礼文島を代表する固有種ですが、盗掘などでその数は減少し、絶滅の恐れがある国内希少野生動植物種に指定されています。今季の花の見頃は終わりましたが、毎年5月下旬から6月中旬の開花時期には、生息状況の調査や監視、普及啓発活動など、地域の皆様と協力して、島の大切な宝物であるこの花をそっと見守っています。

撮影地：レブンアツモリソウ群生地（礼文町）

礼文島



小さな沼の嬉しい花便り

夏の時期、“コウホネ”というスイレン科の水生植物が、湖沼に黄色い花を咲かせます。稚内西海岸の浜勇知園地には、その名も“こうほね沼”があり、かつてはコウホネで水面が埋め尽くされていましたが、近年は水位の低下などにより全滅の危機に瀕していました。当時の姿を目指して地域の関係者と共に移植作業を行い、3年が経ったこの春、この沼に根付いたコウホネが数輪の立派な花を咲かせました。

撮影地：こうほね沼（稚内市）

サロベツ



北海道地方環境事務所では北海道の国立公園などで、活躍するアクティブレンジャーの活動を紹介する「アクティブレンジャー日記」も配信しています。左のQRコードからご覧ください。



「国立公園たより」とは、日本最北の国立公園利尻礼文サロベツ国立公園で働く環境省のスタッフが季節ごとのとっておきを皆様にお届けする広報誌です。

※バックナンバーは左のQRコードからご覧になれます。

発行：環境省稚内自然保護官事務所